

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
子どもから高齢者まで支えあいの心がみなぎる安心して暮らせる安全なまちづくり	高齢者もみんなが安心して暮らせるやさしいまち	高齢者	ふれあいサロン等の運営や参加者に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいサロンを主催する担い手の経験不足等 参加者の減少（内容の選定、講師等） 高齢者等の集う場所を増やし、介護予防に取り組むことが大切 元気くらぶに新しい参加者を入れていく取り組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 市や校区等で計画される研修会等に積極的に参加し、スキルアップを図る サロンや元気くらぶの立ち上げや運営方法を学べる研修会が必要 参加案内だけでなく、参加することのメリットをPRする 通いの場が少ない地域を中心に活動中の様子や参加者の声を伝え、通いの場の必要性を伝える 参加者の興味深い内容を精査して参加を呼びかける（講話、体操、ゲーム等） サロンや元気くらぶなど高齢者が集える場所を各町内に1か所以上設置する 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいサロン研修会等への積極的な受講促進
			新型コロナによる高齢者への影響	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で高齢者の心身の衰えが心配 コロナ禍で外出が減り、地域住民同士のコミュニケーションが減少している コロナによる地域活動への影響（高齢者の活動量の低下等） 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ外出を促す（グランドゴルフ等） 近隣同士の声かけが大切 老人会の集まりなど会場まで歩いて行けない方に声かけを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 校区におけるふれあいサロン等の運営に関する研修会の開催 ふれあいサロンや元気くらぶの必要性や参加することのメリットの周知
			高齢者の見守りや安全	<ul style="list-style-type: none"> 地域（町内）での連帯感（意識）の希薄により、高齢者（一人暮らし等）への見守り活動ができない（助け合いの心の醸成） 高齢者が自宅で安全安心に暮らせるための対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 町内だより（双方向）を発行し、情報の提供・交換を行う 老人クラブでシルバーヘルパーを養成する 命のバトン事業の再調査及び新規対象者への案内を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいサロンや元気くらぶなどの集いの場の拡充（各町内に1か所以上設置） 命のバトン事業の拡充
			老人会活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> 老人会の魅力作り。未加入者の意識改革 以前に比べて老人会に集まる人数が少なくなった（足腰が弱くなった為と考えられる） 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会のPRを機会を見てこまめに呼びかけをする。加入しやすい状況作り 老人会の毎月の定例会の内容を充実する。参加してよかったと言われる内容を工夫する クラブ活動の充実（グランドゴルフ、吹矢、カラオケ、囲碁、マージャン等） 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会に対する活動支援 買い物支援についての協議 各種団体との連携の強化
			高齢者等の買い物支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域によっては買い物に苦慮しておられるところがある 	<ul style="list-style-type: none"> 校区社協での検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の継続
			各種団体との連携強化や役員の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> 民児協や老人会との連携強化による事業の強化 自治会や老人クラブ等、組織のまとめ役がない 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会や民児協の結びつきを更に強固なものにし、元気な人を中心に活動に積極的に参加してもらう 組織の長への女性の登用（男性の理解が必要） 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会に対する活動支援 買い物支援についての協議 各種団体との連携の強化
			認知症高齢者への関わり方	<ul style="list-style-type: none"> 軽度な認知症高齢者への正しい理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座を計画的、継続的に実施し、若い世代に正しい知識を持ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の継続
	障がい児・者	高齢者、障がい者への理解	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障がい者の方々の人権にどう配慮して、活動ができるか。一方通行の関わりではなくしっかり傾聴することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 人権や虐待、障害者差別解消法など、市の出前講座を活用し学ぶ機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> 人権、虐待及び障害者差別解消法などを学ぶ研修会の開催 	
		障がい者への支援	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人への接し方が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者サポーター養成講座を開催し、障がいについて学ぶ機会を設ける 障がい者施設との交流が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者サポーター養成講座の開催 障がい者施設との交流事業の実施 	
	守り子どもを育てる地域しみいんなちで見	子ども・子育て	地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場に地域住民の方から出向き、交流していく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 校区運動会、防災訓練、安全教室の開催 西山中学校、千原台高校等の生徒との母子の交流 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事（校区運動会、防災訓練、安全教室等）への協力
			子育て家庭の見守り	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児をもつ家庭の母親の孤立が気になる 校区が広く家族の形態も様々。また、転出入も多いため、情報の伝え方を工夫する必要がある 不登校の子どもを持つ家庭をケアする場が必要（子ども、保護者ともに） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動に参加してつながりをつくる 赤ちゃん訪問、子育てサークルの再開 民生委員、主任児童委員の方と密な連携 赤ちゃん訪問やサークル活動を通じて、孤立感を抱える母子に、地域の方と母子、母子同士でつながる場を案内する（個別対応） 親が子どもの話をしっかり聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生、高校生と乳幼児を持つ親子との交流会の開催 子育てサークルの再開と活動拡充への支援
	のい災平 ま助意素 ちけ識よ 合のり い高防	(その他) 地域全般	災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> 災害福祉マップ及びハザードマップ等を作成し、住民に配布する 隣近所での互助活動が大事である。声を掛け合って「率先避難」 	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップができていない町内へ作成を啓発する 災害時の避難を見据えて、近所づきあいを密にする 	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップ作成への支援
い連楽住 ま帯し民 ち意くみ 識暮ん のらな 高すが	地域活動等の広報		<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の広報がうまくできていない 校区社会福祉協議会の中・長期基本理念が呈示されていないため、地域住民の社協への認識が浅い。地域住民にもっと社協を理解してもらうため周知する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 校区回覧を利用し周知する（校区社協の組織、目的、内容を理解してもらう） 	<ul style="list-style-type: none"> 町内だよりの拡充 回覧板を活用した広報の拡充 	